



公表「2013-8月 乳用種雄牛評価成績」

平成25年8月6日に乳用種雄牛評価成績2013-8月が公表になりました。今月はこの成績と種雄牛について紹介させていただきます。

今回新たに14頭の種雄牛が選抜されました。14頭の内訳は、当団から3頭、ジェネティクス北海道から7頭、十勝家畜人工授精所から2頭、家畜改良センターから1頭、3社共有から1頭が選抜されました。なお、3社共有牛(JPOH)とは、当団、一般社団法人ジェネティクス北海道、(株)十勝家畜人工授精所が共同所有し供用する種雄牛のことを云います。

今回新たに選抜された種雄牛は、以下の通りです。

順位	略号	名号	NTP	乳代効果	Milk	肢蹄	乳器	決定得点	父
2	JP3H54800	レディスマープレジャーET	3,763	184,326	2,399	1.23	1.61	1.81	Mr.バーンズ
3	JP5H54811	タロツキマロニーダース	3,751	168,775	2,066	0.61	1.88	1.50	ボルトン
4	JP3H54722	SPブランドイバクスターET	3,664	187,731	2,071	0.46	0.76	0.69	バクスター
5	JP3H54884	ティユーJSファンタジスタET	3,427	163,428	1,988	1.32	1.41	1.95	ジェットストリーム
6	JP5H54668	オムライスティーGET	3,354	165,585	2,270	0.63	1.35	1.39	バクスター
8	JP3H54723	ハンカシンUFストライカーET	3,307	178,884	2,152	0.78	1.66	1.57	エアレイド
9	JP0H54863	ドリームジェットサンダーボルト	3,257	148,127	1,628	0.69	1.16	1.17	ジェットストリーム
10	JP3H54828	グリーンハイレガリアET	3,205	130,762	1,684	0.62	1.56	1.64	バクスター
11	JP4H54859	モントラップゴールデンボルトンET	3,183	97,989	824	0.39	1.31	0.78	ボルトン
13	JP4H54802	ゴールデンビューカリプソシルキア	3,092	180,594	2,344	1.01	0.82	1.37	カリプソ
22	JP5H54887	ロツキーフレッドリードマンET	2,862	170,583	2,324	0.78	1.49	1.71	バクスター
30	JP3H54848	ウチロミオミスターザイオン	2,715	134,899	1,511	0.98	0.30	1.15	Mr.バーンズ
57	JP5H54376	マウンテンミリオンET	2,373	88,995	1,141	2.00	1.61	2.14	モデスト
67	JP3H54836	ラプレーションヨハバルストRED ET	2,053	121,217	1,695	1.47	0.55	1.42	Mr.バーンズ

※2013-8月評価成績を持つ72頭中、上位10傑である指数および形質に網掛けしています。

新たに選抜された種雄牛の父牛は、バクスターが4頭、Mr.バーンズが3頭、ボルトンおよびジェットストリームが各2頭、エアレイド、カリプソおよびモデストが各1頭となっております。バクスター、Mr.バーンズおよびカリプソなどは、アウトクロスとして使いやすい種雄牛です。

今回の新規選抜種雄牛の成績では、乳代効果や乳量においてプレジャー、スライスティーG、ストライカー、シルキアおよびロツキーが非常に高い改良力を持っております。また、ここには掲載していませんが、乳蛋白質量の育種価ではプレジャーが世界第4位(赤本掲載基準1455頭中)、乳脂肪分量の育種価ではSPが世界第2位、ゴールデンが世界第4位にランキングされており、非常に高い育種価を持っております。

体型面についても高い改良力を持つ種雄牛が選抜されています。今回選抜された牛の中ではダースは最も乳器の育種価が高い牛です。また、プレジャー、ファンタジスタおよびミリオンについては、肢蹄および決定得点で非常に高い育種価を持っております。特にミリオンの肢蹄の育種価は、2位を大きく引き離しての国内第1位であり、インターブル評価でも世界第4位の育種価を持っております。

今回も様々な特徴を持つ種雄牛が選抜されております。皆さまの経営に合った種雄牛をお選びのうえ、ご利用頂ければと思います。種雄牛に関するご質問をいつでもお待ちしております。

一般社団法人 家畜改良事業団 岡山種雄牛センター担当：神澤 ☎(0868)57-2475 までお問い合わせ下さい。

日本政策金融公庫農林水産事業からのお知らせ -その50-

広島県の酪農家の皆様へ

このコーナーでは日本政策金融公庫から、酪農家の皆様の経営に役立つ情報を提供して参ります

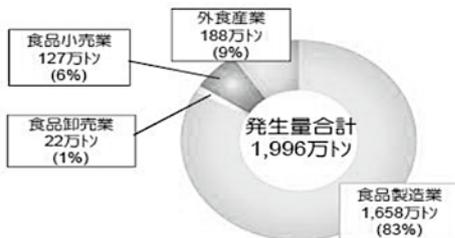
TOPIC 進む食品廃棄物の飼料化とその課題

6月に発表された農林水産省の統計によると、23年度に食品関連企業が製造過程等での食品廃棄物を飼料などに再生利用している割合は、前年度より2ポイント上昇し、84%となりました。畜産業と食品産業の双方にとって効果が期待されている食品残渣飼料、いわゆるエコフィードの現状をまとめました。

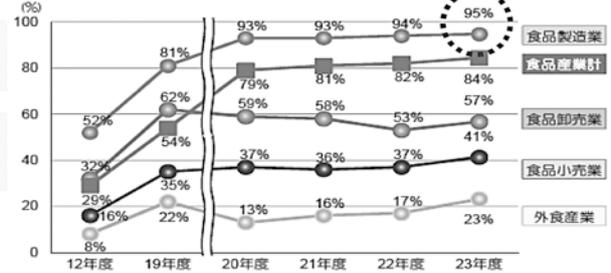
食品産業における食品リサイクルの現状

○平成23年度の食品廃棄物の発生量は、前年度比4%減の1,996万トンで、約8割が食品製造業によるものとなっている。

○一方、食品の再生利用等実施率は、食品製造業が95%と最も高く、食品卸売業57%、食品小売業41%、外食産業23%と続いている。



【食品循環資源の再生利用等実施率の推移】



業種	再生利用等実施率 (%)					熱回収	減量	
	発生抑制	再生利用	飼料	肥料	その他			
食品製造業	95	9	71	78	17	5	2	13
食品卸売業	57	7	46	26	48	26	3	1
食品小売業	41	11	30	45	34	21	0	1
外食産業	23	4	16	26	37	38	0	3
食品産業計	84	8	63	75	18	7	2	11

○再生利用の内訳を見ると、飼料化の割合が最も高い。

出典：農水省「食料産業部会配布資料」

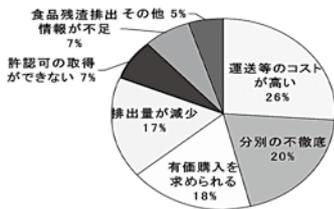
エコフィードの製造方式

○エコフィードの製造には、①乾燥方式、②サイレージ方式、③リキッド方式の3つがある。

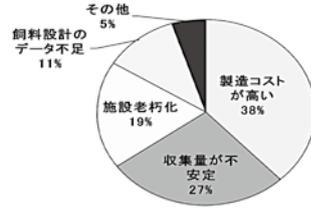
方式	内容	主な原料	対象	特徴	価格 (円/kg)
乾燥方式	脱水や高温蒸気によって乾燥させる	余剰食品、厨芥等	牛豚鶏	○多種多様な原材料の加工が可能 ○初期投資や加工費(燃料)が大きい ○保存性に優れ、広域的利用可	24.6
サイレージ方式	密封し、乳酸発酵させる	ビール粕、とうふ粕、果汁粕等	牛	○食品製造副産物のうち粕類の加工が可能 ○初期投資や加工費が比較的安価 ○混合飼料の原料として地域的に利用	24.5
リキッド方式	液状に加工する	余剰食品、厨芥、野菜屑、水分の多い食品残渣等	豚	○水分の多い食品残渣の加工が可能 ○初期投資、加工費が安価 ○地域的に利用。家畜への給与と機械が必要	5.3

出典：農水省「エコフィードをめぐる情勢」

○配合飼料価格の高騰もあってエコフィード需要は堅調だが、食品残渣等の収集における運送等に係るコストが高いことや分別の不徹底、また、製造に係るコストが高いことや収集量が不安定といった点が課題となる。



【食品残渣等の収集における障害】



【エコフィード製造上の障害】

農水省「エコフィード製造事業者アンケート調査結果」

エコフィード事業所に関する情報

○中央畜産会ホームページ
⇒ <http://ecofeed.lin.gr.jp/map.cgi>

※ 詳細については、農林水産省のホームページをご参照ください。
⇒ http://www.maff.go.jp/j/keiei/koukai/hito_nouchi.html

(株)日本政策金融公庫 広島支店 農林水産事業

所在地：〒730-0031 広島市中区紙屋町 1-2-22 広島トランヴェールビルディング 6階
TEL:082-249-9152 FAX:082-249-9102

○相談窓口も以下の場所で開催しております。

三次相談窓口(10月は2日と16日)

庄原相談窓口(10月は3日と17日)

福山相談窓口(10月は11日)

場所：三次農業協同組合本店

場所：庄原農業協同組合本店

場所：日本政策金融公庫福山支店

※ 予約制で開催しております。ご来店の際は事前にご連絡をお願いいたします。